

佐賀県知事 様

住 所 佐賀県佐賀市水ヶ江3-10-23
団 体 名 特定非営利活動法人日本レスキュー協会
代表者職・氏名 理事長 吉永和正
電話番号 0952-26-3988

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による
寄附金活用実績報告書

令和3年5月12日付け県協第332号により寄附金交付決定通知のあった佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して下記のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱の規定により、関係書類を添えて報告します。

記

- 1 活用実績報告書（様式第6号 別紙1）
- 2 収支決算書（様式第6号 別紙2）

令和3年度寄附金活用実績報告書

事業名	災害救助犬事業・セラピードッグ事業・動物福祉事業・災害対応
寄附受入額	53,914,217円
事業内容(いつ、どこで、誰が、何を、どのように実施したのかについて記載)	
<p>1. 災害救助犬・セラピードッグ事業・動物福祉事業・災害対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間(いつ): 2021年4月～2022年3月 ・場所・会場(どこで): 佐賀県内、大町町にて日本レスキュー協会佐賀県支部大町拠点「MORE WAN」にて、その他被災地にて ・主催者(誰が): 日本レスキュー協会 ・事業の要旨 <p>令和3年熱海市伊豆山土石流災害に災害救助犬とハンドラーを派遣し、被災地に集まった災害救助犬とハンドラーの調整を行う。令和3年8月豪雨により佐賀県の西部地区に甚大な被害が出た。発災後より日本レスキュー協会が事務所機能を担っていた佐賀災害支援プラットフォーム(以降SPF)を始めとした県内団体と連携して被災地に入り、情報収集・共有を行う。SPFは県外団体が佐賀の被災地に入るためのガイドラインを作成し、被災者の方の不安を増長させることが無い様に被災地での復旧活動に関しても新型コロナ対策を講じた。日本レスキュー協会としても職員を被災地の一つである大町町役場のCSO連携会議室に常駐させ、地域を回りペットに関するお困りごとなどの情報を集めてペット用フード・グッズの物資支援や、ペットと車中泊されている住民にマイクロバスを貸し出すなどの個別対応にあたっていた。(動物福祉事業)</p> <p>また日本レスキュー協会佐賀県支部大町拠点「MORE WAN」の建物が新型コロナウイルスの影響により生じたウッドショックや半導体不足のために当初の予定よりも3カ月ほど遅れて令和4年2月に建物が完成した。ドッグラン、道、駐車場、門、訓練施設等の外構工事や建物内の備品の手配なども現在進めており拠点の整備を行っている。5月末より災害救助犬候補が1頭入舎し訓練を開始して、災害時における九州圏域への派遣体制を整えていく。またセラピードッグの育成教室やしつけ教室を始めるために佐賀県内の技術者に相談しており、スケジュール調整が出来次第開始していく。佐賀県の犬は災害救助犬の訓練生であるため、災害発生時には本部から災害救助犬及びスタッフを迅速に現場に投入し、捜索活動などを行う。</p> <p>「MORE WAN」は4月以降はセミナールームや訓練エリアをレンタルスペースとして貸し出す予定であり、SPFを始めとした県内外の団体が様々なセミナーや講演会、専門的な技術講習会などを行いたいとの事で4月～たくさんの利用予約をいただいている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペットの指定避難場所の指示など行動指針の啓発活動 <p>外構工事を進めながら同時に佐賀県内外の技術者と連携をとり一般の方向けに様々なセミナーや講演会を行っていく。ペット関連ではしつけ教室、セラピードッグの育成教室、その他、また防災減災関連では重機やチェーンソーなどの専門的な技術講習、防災減災関連のセミナーなどを企画している。当初の予定では一般の方も招いて実施予定だったがまん延防止等重点措置が発令されていた為、関係者のみで2月6日にペットとの同行避難の訓練を行った。再度一般の方も招いて2022年度6月にペットとの同行避難の訓練などを実施予定。</p> <p>動物たちの地位やQOL(生活の質)の向上を図り、人とペットが真に共生できる社会づくりを目指</p>	

す。

○イベント実績

コロナ禍の影響でイベント自体が激減した。

2021年6月17日 「おもやいオンライン防災教室 ペットを守ろう」に参加。

2021年10月24日 田島興産株式会社 Relife にブース出展 セラピードッグのふれあい体験を実施。

2021年12月18～19日「さが 街なか de バルーン」にブース出展。災害救助犬のデモンストレーションを2日で計3回実施。

2021年12月25日 大町町「絆サンマ祭り 2021」にブース出展、災害救助犬のデモンストレーション、セラピードッグのふれあい体験会を実施。

事業実施の成果・効果（見込み）

※提出期限までに成果・効果を示すことが困難な場合は、成果・効果の見込みを記入してください。

コロナ禍の為にイベント自体が激減したが、その中でもいくつかのイベントなどに参加し、デモンストレーション・ふれあい体験などを行うことにより、犬の持つ素晴らしい能力を知ってもらいことが出来た。2022年の2月には日本レスキュー協会佐賀県支部大町町拠点「MORE WAN」の建物が完成した。今後この建物で防災・減災・ペットに関する様々な講習会やセミナーを開いていくことにより佐賀県の防災力・防災対応力の強化につながる。非常に印象的な建物の形状、人と動物の共生拠点というコンセプト、ペットとの同行避難が可能な民間の避難所など話題性のある拠点であり、この施設を目指して佐賀県に来るといった効果も期待できる。実際に4月以降に県外の団体がセミナールームを活用して災害に関するセミナーを行いたいと複数件の予約をいただいている。外構工事（道や門や駐車場の整備、ドッグランの整備）が残っているため、講習会やセミナーを開きながら同時に進めていき、設備が整い次第グランドオープン予定である。県外からの観光客の増加、また県外への人口の流出を防ぐ、佐賀県をより魅力的にする施設を目指している。

(様式第6号 別紙2)

収 支 決 算 書

事業名		災害救助犬事業・セラピードッグ事業・動物福祉事業・災害対応	
区 分		決算額 (円)	備 考
収 入	佐賀県ふるさと寄附金	53,914,217 円	第1回交付：3,811,500 円
	(固定 IP アドレス取得支援金)	50,000 円	第2回交付：5,620,500 円
	融資	20,000,000 円	第3回交付：5,922,900 円
	建設基金	10,000,000 円	第4回交付：38,609,317 円
	繰越金	103,937,937 円	
	収入 計	187,902,154 円	
支 出	人件費	5,379,600	361000×0.3×12=1299600 240000×12=2880000 200000×6=1200000
	水道光熱費	375,195	
	拠点建物建設費	93,070,000	18200000+36500000+38370000
	旅費・交通費	2,900,895	
	消耗品費	6,000,000	
	保険料	1,034,650	
	通信費	1,344,961	
	仮払い金	110,000	
	支払手数料	1,019,000	
	使用料・賃借料	2,818,682 円	土地、宿舎、事務所、駐車場
	返礼品等の調達に係る費用	16,050,482 円	
	返礼品等の送付に係る費用	1,207,891 円	
	広報に係る費用	581,076 円	
	事務に係る費用	1,921,610 円	
	租税公課	230,000	
	繰越金	53,858,112	モアワン・避難所運営に充当
支出 計	187,902,154 円		

○支出区分は、謝金、旅費、印刷製本費、消耗品費、使用料等に分けて記載してください。

経理上の区分名で記載して構いません。

○領収書等は事業終了後5年間保存してください。